

平成十四年六月発行 発行者 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹  
事務局 富山県砺波市表町七二十五 TEL 0763/33/6588 天野一男建築工房内

# 今年も沢山の屋敷林や樹叢の見学を

## — 松久 卓氏の講演に共感 —

平成十四年五月十八日午後、チューリップ公園内の中島家でカイニヨ倶楽部の総会を開催。十九名の参加でした。

柏樹代表幹事が挨拶(別項)し、天野事務局長が十三年度の事業や決算の報告をしました。十四年度の計画として、より沢山の屋敷林や樹叢に触れる機会をつくることに集中し、子供との触れ合いも念頭に土曜日を行事(例会)の日とする案を確認しました。

記念講演は、富山県自然保護協会常任理事・松久 卓氏の「外から見た屋敷林」で濃密な論理の展開と屋敷林保全へのキーワードの提言に一同共感・共鳴し、自然態の励ましを受けました。(写真・中島家での総会)

## 『屋敷林保全には「回廊」の視点を』

### — 記念講演要旨 —

・現役時代の沖繩勤務の三年間と富山県に入ってから比較感想—沖繩では海につつまれ、温度が高いのに「湯き」を感じた。これは風景の中に水田がないからだ。五箇山トンネルを抜け、城端から砺波平野の景観は、スギと水田の風景。ここからは安堵感をおぼえた。これは人間のDNAにすりこまれたものだろう。

・富山県の植生は、冷温帯のブナと暖温帯のシイ・カシ・ヤブツバキが合流し、ブナとスギの混交した型がブナ平(立山町)にみられる。

・スギは真直ぐ—神の下りる木として利用の歴史も古い。日本書記にも出てくる。

・スギの特徴—水が豊富で水はけの良いところに育つ。入善の沢スギの型は、広く平地にあった。

・洪水になっても水のつかない微高地で生活し、食糧と燃料をうまくつなぎとめたものが、散居であり、屋敷林。

・宅地の内屋敷林の成立部分の平均は730m。森林の最低は1kmであり、独立した森林空間として理にかなっている。昭和三〇年代までカイニヨの中で薪・山菜・

## 柏樹代表幹事の挨拶

— 一年間をふりかえって。①展覧会・掃



除はしたが見学会・茶会はできなかった。  
②田園博物館のコア施設を中心にした勉強会を開いた。③「あせり」と「ぬかったこと」が多かった。— 行事は会員の期待にそって

いるのか。  
二、グリーンツーリズムを会員の中からの行動で実行されたことは新しい活動として期待したい。その中で考えておきたいことは、①受け入れ体制の整理。②一発で終わらない活動として全体で反省、整理しておくこと。

三、カイニヨ倶楽部への注目と応える力量が問われている。そのために①三年以上の会費未納者は自然にやめてもらう。(会員は送料であるため)②会員が独自に企画し実行する。それを事務局に集中しておくこと。会の財産としていく。

水をとっていた。

・スギがカイニヨの主木になっている要因—一例だが一軒の屋敷林で33本のスギの一年間のスンバの落葉量は、炊事に使う燃料で2年分に相当する。

・藩政時代「七木の制」としてスギ・ヒノキ・マツ・ツガ・クリ・ウルシ・ケヤキを指定し藩の財政・復旧材として重宝した。

・屋敷林の枯死減少・スギの先端枯れ—大気汚染・酸性雨・虫害・生理障害・土の固結・地下水の低下等複合的な要因ではないか。

・カイニヨ倶楽部の発展には三つの事が大事①参加にカイニヨの有無はとではない。②肩書きはつけない。③年令・性別不問。その名前は倶楽部であり「俱」は「共に」楽しむ

集まりで悩みも含め話し合う場にする。④田園博物館について—散居住民・倶楽部員が主体であること。その仕事は建物づくりより散居をどうするかを考え、子供に受け継ぐ機関であること。

・散居の景観は文化だ。—これも人が住んでいるから変わる。どう文化を維持するかだ。その保全のヒントとしてカイニヨをつなぐ「回廊」これがキーワードだ。人と人の

つながり・村と町とのつながり・屋敷林と屋敷林をつなぐ水路と線の道を大いに考えることだ。

### 平成一四年度計画のベースは

平成十四年度の活動計画としてベースにしたことは

- ① 会員がもつと屋敷林の色んな形に近づきその中で思考を高め、楽しみを増やせる機会として見学会を多くする。
- ② 子供や家族と一緒に参加をめざし、例会は土曜日の半日として準備する。
- ③ 屋敷林の掃除ボランティアも一部加える。
- ④ 具体的に提案する日や場所は都合で変更する事もあるが、一応今年の例会は七月六日(土)、九月七日(土)、十一月九日(土)、平成十五年四月上旬を予定する。予定の前に会員へは場所・日時・必要事項を案内する。会員は回りの人も誘って参加する。



(写真・総会スナップ)

### ◆◆ 松久さんへの質問 ◆◆

○・散居の成立の解明手法は??

答: ①地名をヒントにするー「新」「開」

②扇状地形であり微高地をおさえていく。木があると水流はおちる。③藩政時代の支配としては集村がおさめやすい、そうならないことは藩政以前の発生だ。

K・①屋敷林をめぐって過去・現在・未来をまとめられないか。②苗木市でスギ苗を扱ってほしい。植えて育てる事が大事だ。

答: ①将来をどうするか思考してみる事も大事だ。②スギにこだわらなくてよい。どんな木を入れるかは各人の選択でとに

かく植えることだ。スギは山林種苗として手に入る。

S・スギは先が尖っているものだが、最近丸くなっている。

答: 成長が鈍くなり横へかまえる時代に入っているのではないか。又障害で遅れることもある。丸くなくても枯れないなら心配ない。

I・スギはヤニが出るが防止方法はあるか?

答: わからない。ヤニの発生原因として考えれることは虫か、生理か、風でモメるかで異物浸入を防ぐためと癒しのためではないか。

### 倶楽部活動予定

7月6日(土)

樹叢見学会ー殿照寺 (砺波市福岡)

九月七日(土)

千光寺ー重みのある樹叢にふれお寺の歴史を知る。

十一月九日(土)

屋敷林見学 岩屋・示野の屋敷林 2-3軒歴史ある屋敷林 (樹令の交流したカイニヨ)

四月上旬

シダレサクラの見学

石崎 安次郎宅

### スギと御堂の連携

七月六日午前9時 殿照寺

(砺波市福岡)の境内林の見学会を開きます。見学のあと御堂で講話と意見交換をします。

家族・子供さんともに参加して下さい。会費一家族三百円。雨天決行です。

見学会は午前中に終わる予定です。

### ♪庄川流域・森と海を つなぐ交流会♪

庄川流域・森と町・海をつなぐ交流会が開かれました。カイニヨ倶楽部からも参加しました。

五月二十四日(金)朝から夕方まで庄川流域の屋敷林(砺波市) 造材地(平村) 魚のせり市場(新湊) 野化施設(大門) おがこ製造施設(砺波市)を見学し、県砺波総合庁舎で意思交換をする日程でした。カイニヨ倶楽部からは会員の加藤悦夫さんが二人の地元の人とともに参加し流域交流を深めました。カイニヨ見学は砺波市荒高屋の河島加寿子さん宅の屋敷林でその案内を代表幹事の柏樹直樹さんがしました。交流会の参加団体は流域市町村・森村組合漁業団体などから20名余りでした。

### ★事務局からお知らせ★

倶楽部への要望や参加した感想など何でも結構です。FAXやおハガキで送ってください。お待ちしております。また、年会費未納の方はなるべく早めにお願います。